

背景と目的

- ・国内でのスマートシティ事例のうち、防災分野で先進的な取組が行われている兵庫県加古川市と福島県会津若松市の事例に着目
- ・防災分野の取組内容や体制などを調査し、その特徴を整理するとともに、両市のスマートシティ事例の国内外への横展開についての今後の展望も整理

結果

【防災分野の取組】

- ・多様な主体の参画がある協議会等の「場」の存在、民間企業のノウハウが活用されていることが、両市での防災分野の取組の特徴としてあげられる。

表 兵庫県加古川市と福島県会津若松市における防災分野の取組

	兵庫県加古川市	福島県会津若松市
協議会等の「場」	①加古川市スマートシティ推進協議会 ②かこがわICTまちづくり協議会 →両協議会ともに産学官民の多様な主体が参画	①(一社)AiCTコンソーシアム →民間企業が代表となり、スマートシティ事業を通じた地方創生・地域活性化を推進するプラットフォーム ②「スマートシティAiCT」(写真1) →AiCTコンソーシアムに参画している民間企業の多くが入居するオフィス棟であり、他企業の職員同士が連携しやすい環境
民間企業のノウハウの活用	・地上波デジタル放送の活用 →屋外放送の聞き取りづらさという災害情報の伝達での課題の解消	・位置情報を活用したデジタル防災(写真2) →最寄りの開設避難所の検索とルート表示など、避難支援を目的としたサービス



写真1 スマートシティAiCT



写真2 避難所までのルート表示

【国内外への展開】

- ・国内への展開については、他の自治体にも展開していこうとする動きが見られる。国外への展開については、慣習や生活様式に対応した技術提供、データ連携基盤の管理運用などのノウハウといった技術レベルの違いに対応した技術提供、官民が連携した展開国先での機運の醸成が今後の課題としてあげられる。